

# 小学校外国語 (英語) 活動に期待するもの



愛知教育大学・大学院 教授

高橋美由紀 氏

教育随想

平成二十三年度より「小学校外国語 (英語) 活動」が必修化される。日本の小学校で英語を学ぶことの意味は、二十一世紀を生きる子供たちに、国際共通語となつている「英語」でのコミュニケーション能力を身につけさせることにある。

私は、アジア諸国の子供たちの英語教育を研究テーマの一つとしている。英語を第二言語として使用している国では、高等教育が母語ではなく、英語で行われているため、学歴と英語能力との間には密接な関係がある。そして、英語が巧みに操れる人は、ステイタスの高い職業に就くことができ、豊かな生活が保障されている。一方、貧困家庭の子供たちは仕事に就くのも困難であり、貧しい生活を強いられることになる。

かつて、フィリピンの「ごみの山」で七歳の少女に出会った。彼女は教育を受けてはいないが、私に、彼女



平成22年2月1日

## 2月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知教育大学・大学院 教授 高橋美由紀氏	
この人に聞く	2
岡崎ジャズストリート 実行委員長 同前 慎治氏	
羅針盤	2
新香山中学校長 渡辺 邦夫	
ふれあい	3
岡崎小 都筑 郁代	
特集	4
閉校によせる思い ～鳥川小・大雨河小・千万町小～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
薪を背負う小学生 (昭和19年)	
この本を	8



の宝物である「ちぎれた絵本の端に描かれているリングの絵」を指し示して、「APPLE-E」と繰り返した。

バングラディシユの私設学校では、授業後「粉ミルク」を支給しているの、それを目当てに子供たちが学校に集まってくる。ノートと鉛筆をプレゼントした私に対して、子供たちは、早速、「Thank you」「My name is」とノートに書いて見せてくれた。

国際共通語に国境はない。ましてや、コミュニケーションの手段として使用することば (英語) には貧富

の差が生じるべきではない。

私は、子供たちが外国人の私に対して、彼らの知っている限りの英語を駆使して、なんとかコミュニケーションを図ろうとしていた姿に感動した。

日本の子供たちが「外国語 (英語) 活動」を学んだ後、国境ばかりでなく、あらゆる壁を越えて、コミュニケーションを図れるように育ってほしいと期待しつつ、私もそのお役に立てるように、教育論や教育方法論等で自論を紹介していきたい。

(たかはし みゆき)

## ふるさとシリーズ この人に聞く



い  
き  
粋に生きたい

岡崎ジャズストリート 実行委員長

同前 慎治 氏

「以前よりも、この岡崎でジャズが耳慣れてきたとは思いませんか。」  
小粋なジャズが流れる店内の一角にゆっくりと腰を下ろし、同前さんは語り始めた。

昨年十一月に開かれた第四回岡崎ジャズストリートは、街中の喫茶店、信用金庫、証券会社、寺院、能楽堂、医院など、全二十箇所の会場に、全国から延べ三百人以上のミュージシャンが集結し、二日間二万三千人余りの観客でにぎわった。同前さんは、第一回からその実行委員長を務めている。

「毎年十月ごろになると、当日の天候やチケットの売れ行きが気になり

始まります。気苦労はイベント終了まで続きます。」

愛媛県松山市で生まれ、小学三年生のときに終戦を迎えた。

「小学四年生のころ、進駐軍のラジオ放送からジャズが流れてきました。そのとき、こんなすばらしい音楽があったのかと思いました。それが、私とジャズとの最初の出合いでした。それ以来、私の周りにはいつもジャズがありました。」

そんな同前さんとジャズとのかわりがさらに強くなったのは、二十数年前、夫妻で出かけた神戸で、偶然、神戸ジャズストリートに出合っただけである。

「洋館が建ち並ぶ町並みに本当に合っていました。大きな感動を受け、こんなイベントが岡崎でもできればいいなあと思いました。」

この出会いをきっかけに、「いつか岡崎で神戸ジャズストリートのような街ぐるみのジャズイベントができれば」という思いを、強く抱き続けるようになったそう。そして、二〇〇四年一月、「岡崎ジャズを楽しむ会」発足記念ライブの会長あいさつの中で、その思いを会員約百二



十名の前で語った。  
「当時は、だれもが具現化の難しい夢物語として聞いていたのではないのでしょうか。」

折しも、二〇〇六年春から、岡崎を舞台とした「純情きらり」が放映されるということで、街の活性化の機運が高まった。

「あの番組のおかげで、ジャズへの関心が一気に高まりました。また、市制九十周年と重なり、商工会議所がこの企画を後援してくれることになったのも大きな力になりました。」  
岡崎ジャズストリートの特色は、その運営を支える多くのボランティアアスタフにあるという。

「ジャズを愛好する仲間が集まりました。みんな手弁当で、自分の仕事を抱えながらの活動でした。一年かけて準備した第一回が成功したときには、抱き合って泣きました。一回やればいいと思っていたのですが、今でも、週に二、三回はライブハウスに出かけるといって同前さん。

「私は、ジャズを演奏したり、歌ったりはできませんが、ジャズを聴くのが好きです。粋に生きたいと思う私の生活に、ジャズはとも合っています。喧嘩を忘れ、心から楽しむおしゃべりな趣味になっていきます。」  
ジャズをこよなく愛し、ジャズとかかわりながら、人生を満喫している同前さんの語りに引き込まれた。

氏 名 どうまえ しんじ  
住 所 岡崎市梅園町



落ち着いた環境で

新香山中学校長 渡辺 邦夫

「学校とは本来、落ち着いた環境の中で活気があるものだ」と話された先輩教師の言葉が強く印象に残っている。

「人は環境をつくり、環境は人をつくる」と言われている。人と環境の互いに及ぼし合う影響は、極めて大きいといえる。

「割れ窓理論」という説がある。割られた窓をそのまま放置していると、そこは人の目が及ばないところを受け取られてしまい、事件を引き起こしやすくなる。そして、それがだんだんとエスカレートして、いざいざ大きな事件につながっていくという説である。それと同じで、ごみが落ちていたり、トイレが汚れていたりすることが日常的になると、それがあまり気にならなくなる。そして、生



## 目標に向かって

岡崎小 都筑 郁代

岡崎市小学校球技大会、決勝戦。二点リードして迎えた最終回、ツーアウト。このバッターを打ち取りたい。選手とベンチが一体となって最後の力を振りしぼる。渾身の力を込めた球は、相手のフルスイングを上回り、バシッとミットに吸い込まれた。四十三校の頂点に立った。練習後の反省会で、毎日心に刻み込んできた目標の優勝を自分たちの力で手に入れた瞬間であった。ベンチは笑顔に包まれ、うれし涙を流す者、緊張から解き放たれ男泣きする者、跳び上がり抱き合って互いを称え合う者、どの子も美しく輝いていた。

しかし、優勝するまでの道のりは決して順調なものではなかった。

大会から遡ること四か月。本校に赴任してきた私は、ソフト部の監督になった。優勝候補と聞いていたの

で、期待を膨らませてグラウンドに向かった。しかし、そこで目にしたのは、期待とはほど遠い部員たちの姿であった。一人一人の技術は高く、経験から優勝できる力は十分にあると感じた。しかし、その思いと同時に、このままでは優勝できないとも感じた。部員たちの練習に対する意識がばらばらで、チームワークが感じられなかったからだ。また、自分たちの力を過信し、基礎練習をおろそかにする傾向もあった。

五月上旬に行った練習試合で、チームのよろさが表れた。野手のエラーからエースが崩れ、四球に暴投。打球に力がなくなり、打たれに打たれた。攻撃は、単発のヒットが数本で打線がつかまらない。ベンチも静まり返る。終わってみれば、十点の大差をつけられ大敗した。あ然とする部員たちに、「この結果は当然。これがあなたたちの実力。崩れたときに自分たちで立て直せないのは、日ごろの練習の甘さから。ここで変わらなかつたら大会もこの結果。大会で勝つのも負けるもあなたたち次第、今後の練習次第だ」と、突き放した。

ここからである。大会まで二か月半、やっと部員たちの意識が変わってきた。部員全員で負けた原因を出し合い、その反省をもとに練習の在

り方やチームの目標を話し合った。みんなで声を出し合うこと。基礎練習をおろそかにしないこと。部員全員が「優勝」という目標に向かって必死に練習すること。三つとも当たり前のことだが、毎日、練習の間、全員が常に意識し続けることで、チームが一つにまとまった。レギュラーも補欠もなく、同じように厳しく練習に取り組んだ。

目標を達成できなかったとき、「精いっぱいやったから悔いはない」というのは、本気でやっていなかった証拠であり、自分への言い訳である。本気でやったときこそ悔いは残り、次へのステップにつながるものだと、私は思う。目標を達成した三十二人の部員たちが、自信を持って新たな目標に向かって飛躍することを願う。



活がだらしなくなるなど、他のことにも波及していく。逆に、整った状態なら、汚すのが恥ずかしくなり、きれいにしようという思いが育ってくるものである。

本校でも、落ち着いた環境の中で、子供たちは豊かな心をはぐくんでいる。三年生の授業でも、男女分け隔てなく、互いに教え合う姿が見られる。そして、ちょっとした冗談や的外れた答えも、受け入れてもらえるという安心感からか、和やかな雰囲気、笑い声が起きたりしている。

始業前や授業後に、ごみを拾いながら校内をまわるが、いつも整っていて感心する教室がある。子供たちが進んで整とんしていたり、教師が率先垂範し、黙々と活動したりしている姿が目につかぶ。乱れた環境を放置することは、それを許容することになる。まずは身近なところで、教職員がさっと気付いて行動する。この姿は、落ち着いた環境の大切さを無言のうちに語っている。

学校の環境は、子供の道徳性の育成に深くかかわっている。これからも日々、子供と共に少しでも落ち着いた環境づくりに心がけ、豊かな心をはぐくむ中で、教師自らの感性も伸ばしてほしいと願っている。

# 閉校によせる思い



～鳥川小・大雨河小・千万町小～

## ▲ 郷土創作劇「千万町っ子のお宝大冒険」(千万町小)

本年度の三月三十一日をもって、額田地区の鳥川小、大雨河小、千万町小の三校が閉校になる。そして、鳥川小は豊富小に、大雨河小と千万町小とは宮崎小に統合される。三校とも、閉校から百三十年以上の歴史と伝統のある学校で、児童たちは、山と川に囲まれた豊かな自然の中で、のびのびと学習に励んできた。

昨年十一月末から十二月初旬にかけて、閉校記念を兼ねた最後の「学芸会」が行われた。千万町小では、全校児童五人が学校や地域のお宝を求めてタイムスリップする創作劇「千万町っ子のお宝大冒険」を演じた。劇を創作した職員は、「本年度をもって閉校してしまうことになるが、本校の教育理念である『伝統を受け継ぐやりぬく心』が本物のお宝であることを、メッセージとして伝えたい」と語った。

鳥川小は、全校児童・全職員劇「虹色ほたる〜永遠の夏休み〜」を演じ、大雨河小は、最後の劇「大雨河小歴史物語」を演じた。三校の劇には、それぞれの学校が特色ある素晴らしい教育活動を実践してきたことが表れていた。

その一端を紹介すると、鳥川小のふるさとを愛し、守り育てる「鳥川ホタルの里山活動」は、環境保全で全国的な評価を得ている。大雨河小の全校縦割りの「まごころ隊」の活動は、お年寄りに抹茶をふるまうなど、地域の方々と親しまれている。千万町小の全校音楽活動は、毎年CBCこども音楽コンクールに出場し、数々の実績を残している。

二月中旬に、大雨河小と千万町小は、統合先の宮崎小と、宮崎三校学習会を予定している。また、鳥川小は、思い出と未来を語る会を二月下旬に予定している。

閉校になるさびしさは計り知れないが、母校と故郷を愛する気持ちをいつまでも忘れないでほしいと願う。



▲ 千万町小の全校児童 (5名)



▲ 大雨河小の全校児童 (14名)



▲ 鳥川小の全校児童 (6名)

## ●鳥川小学校●

**全校児童・全職員劇**  
 「虹色ほたるく永遠の夏休み」を演じて  
 僕は、一年生から六年生まで六回の全校劇を経験しました。その年々にいろいろな思いが残っています。でも、今回の「虹色ほたる」は、鳥川小最後の全校劇になり、僕としては、一人の六年生としていい演技ができるようにと責任もありました。当日は、百名ほどの人たちの見守る中、感動ある劇ができ、思わず涙が出てしまいました。オカリナコンサート、お母さんたちの朗読、寿会の朗読劇もあり、みんなで作り上げた思い出に残る閉校記念学芸会となりました。(六年男子児童)



▲ 全校児童・職員による劇「虹色ほたる」



▲ ほたるの保護活動



▲ 子どもの日祝賀会

## ●大雨河小学校●

**大雨河小の歴史物語を参観して**  
 観劇後、私自身の小学校時代が目に浮かびました。入学式を行った講堂は、現在の石原町に移築され、今も使用されています。その跡地に現在の木造校舎が建てられ、五・六年生の二年間、新築校舎で勉強しました。ストーブ用のまきや給食用の野菜を家から持参して使用していました。私の家では、十一名がこの大雨河小を卒業しています。大雨河小をとっても懐かしく感じた「大雨河小の歴史物語」の劇でした。  
 (大雨河学区社教委員長)



▲ 最後の劇「大雨河小歴史物語」



▲ まごころ隊の出張抹茶サービス



▲ 学校前の河原川に稚アユの放流

## ●千万町小学校●



▲ 親子OB器楽演奏会



▲ 運動会で一輪車の演技



▲ プロの演奏家と楽器演奏会

**全校郷土創作劇・親子OB器楽演奏**  
 に取り組んで  
 千万町小最後の学芸会で、当時の児童が大正時代の校舎建築のために、瓦を風呂敷に包んで運んだという場面を親子で演じました。子供と一緒に学芸会で演じるなどという機会は、街中の学校ではなかなかできない貴重な体験だと思います。また親子器楽演奏を通して、一人ではできないこともみんなで力を合わせればできるという千万町魂を、子供に感じ取ってほしいと願って取り組みました。地域のみなさんの温かい拍手をいただき、よい思い出ができました。  
 (保護者)

# お知らせ

## ●教育最新情報

### ○教員滞在研修報告

#### 「未来の学校像」

矢作北小 坂元 干城  
川崎市を中心に特色のある学校を参観するとともに、全国小学校社会科研究協議会に参加して研鑽を積んだ。

コミュニケーションの推進校である川崎市立土橋小学校では、地域の人や有識者・教職員で組織する運営協議会において学校の方針を決定していくシステムが確立されていた。地域が作る学校であった。

川崎市立はるひ野小中学校は、小中一貫校であり、義務教育九年間を四―三―二の節に分けていた。中でも小学五・六年生と中学一年生を同じ節とした中期では、学級担



任と教科担任による授業を併用し、小中のスムーズな連携を図っていた。

全国発表を行った川崎市立土橋小学校で社会科の授業を参観した。子供たちが課題を追究し、新たな問題を見つけていく問題解決型の学習が展開され、迫力ある子供の学びの姿を見ることができた。

新鮮な感動に満ちた研修となり、未来の学校像について考える機会にもなった。



▲保護者も参加する授業研究会（土橋小学校）

#### 「英語活動の充実に向けて」

本宿小 石川 恒彦

全国レベルの研修会への参加と小学校への訪問により、英語活動の充実に役立つ多くのことを学ぶことができた。

①聖学院大学英語指導者養成講座：英語教育は、競争のためではなく共生のためにあるのだから、「日本はTOEFLの点数が低いから」ではなく、「英語が話せると多くの人とコミュニケーションがとれるから」と、考えるとよい。

②小学校英語研究大会東京大会：「来週は言えるようになる」という子供の感想があったら、「前向きでよい」ではなく、授業の内容が難しくたと反省すべきである。

③東京都教職員研修センター 専門性向上研修：カルタ取りなどのアクティビティは、「導入」「定着」「応用・発展」の各段階に応じて、単に札を取るだけなのか、繰り返し言いながら取るのかなど、そのやり方を変化させる必要がある。

#### 「福島の理科教育に学ぶ」

上地小 柴田亜由美

十月十三日から一週間、福島大学の岡田努准教授による研修、理科教育先進校、科学館の視察を行った。

岡田先生の個別講義では、理科教育を科学史・技術史の視点から横断的総合的に捉えることの大切さを学んだ。例えば、科学実験や物作りの体験を通じて、図画工作や社会科を好きな子供が、夢中で理科とかかわることが出来る。

④さいたま市立大門小学校：単純な繰り返し発音練習は避けて、様々なゲームの実践から身に付くように工夫している。



▲実践紹介パネル

裾野を広げて学ぶことの価値に気付かせていただいた。

三河台小学校では、「手で科学する」をキーワードに、操作性の高い学習が構築されていた。手を動かして考えることで、より記憶に残る知識になっていくように感じた。

福島大学附属小学校では、子供の成長を子供自身が認識し、教師がそれらを見とり、単元構成を見直していく理科学習を進めていた。授業を進める上で、子供の見とりの大

切さを改めて痛感した。

科学が好きな子を育てるための教師の熱い思いが伝わり、身の引き締まる研修となった。



▲三河台小学校の「手で科学する」授業

○教員海外研修報告

教員海外研修は、海外の特

色ある学校や教育施設を視察し、事前・事後の研修を含めて教育力を高めることをねらいとして行っている。平成二十一年度は、次のとおり実施された。

〈研修者〉

紀平高之(六ツ美北中学校)

川本祐二(美川中学校)

高山美保(竜美丘小学校)

〈研修期間〉

十月十九日より二十六日までの八日間。

〈研修地〉

オランダ。教育委員会、初等学校、中等学校等、七か所を視察。

〈研修報告〉

①教育システム

オランダには、日本の「学習指導要領」にあたるものはない。教育省が、初等・中等教育において、指導すべき教科、修了段階において達成すべき中核目標、高等学校卒業資格試験の内容を定めているが、どの学年で、どのような内容を、どのような方法で何時間指導するかは、学校に任せ

られている。

②無校区制

保護者は、学校説明会や学校開放日などに参加し、自分の考えに合った学校を選ぶ。そのために、保護者の教育に対する関心は高い。

最低基準として、四キロ以内に複数の小学校が設置されており、学校選択の自由が保障されている。

③初等教育

基礎教育と呼ばれる初等教育は八年間(四歳〜十二歳)で、日本の幼稚園にあたる二年間と小学校の六年間を合わせたものである。最初の一年間(四歳)は、義務教育に含まれていないが、多くの児童は四歳の誕生日を迎える日に入

学している。また、「個々の子供が独自のペースで学べるように」と考えるオランダでは、飛び級も落第もある。子供にとって、最もふさわしい方法で学ばせることが大切だと考えられているからである。

④中等教育

中等教育学校には、大学進学コース(六年間)、高等職

業専門学校準備コース(五年間)、中等職業専門学校準備コース(四年間)の三コースが設けられている。いずれも中高一貫教育である。初等教育の卒業時に実施される全国統一試験などから判断した生徒の能力や興味・関心に基づき、コースを決定する。

将来の進路がはっきり定まらない者のために、中等教育の初期の段階に、レベルの違うコースへの移動ができるブリッジクラスを設け、進路変更に対応している学校も多い。



●表彰

◆第四十四回全国野生生物保護実績発表大会

文部科学大臣奨励賞 生平小学校

◆第五十三回日本学生科学賞

読売理工学大学院賞 南中二年 羽根渕高弘

◆愛知県駅伝カリーニバル

中学男子 竜海中学校

優勝 中学女子

優勝 南中学校

二位 竜海中学校

三位 岩津中学校

区間賞 南中一年 山原愛里

岩津中二年 河合亜美

岩津中二年 福田 琴

◆アジア国際子ども映画祭 in いぶすき

奨励賞 生平小四年 倉橋 亜実

平山 真帆

◆デジタルアートグランプリ

二〇〇九(動画部門)

中学・高校生の部

優秀賞 竜海中二年 原田 史帆

◆第五十九回全国小中学生作文コンクール愛知県審査

最優秀賞 北中一年 松井 健太

◆JA共済愛知県小・中学生書道コンクール

全国共済農業協同組合連合会

愛知県本部運営委員会会長賞

銅賞 岩津中三年 小笠原佑奈

佳作 岩津中二年 内田 一晟

◆第二十九回全国中学生人権作文コンテスト

入選 額田中三年 金城有香里

◆第五十三回全国学芸科学コンクール(感想文部門)

努力賞 岩津中三年 渡部すみれ

努力賞 岩津中三年 富田 かな

◆ASIAGRAPH2009

こどもCGコンテスト部門

優秀作品

竜海中三年 倉橋 壮太

竜海中三年 吉澤慎太郎

入選作品

竜海中三年 松岡 黎

竜海中三年 本多 嵩嶺

◆第六十一回岡崎市民駅伝競走大会

男子の部

優勝 竜海中学校A

二位 美川中学校A

三位 六ツ美北中学校A

四位 葵中学校A

五位 矢作北中学校A

六位 矢作中学校

女子の部

優勝 竜海中学校A

二位 岩津中学校A

三位 矢作中学校A

四位 竜南中学校

五位 南中学校A

六位 六ツ美北中学校A

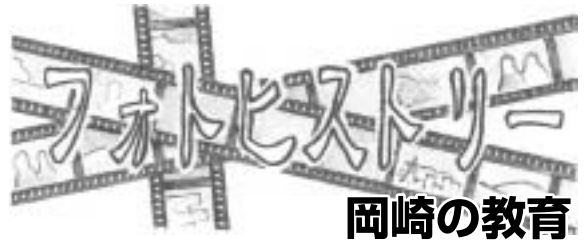
・カ  
ツ  
ト  
井田小  
川村たくみ

# まき 薪を背負う小学生 (昭和19年)

写真提供：鳥川小学校

写真は、戦時下の昭和十九年、鳥川国民学校（現・鳥川小学校）に通じる地道で撮られたものである。国民学校という名称は、昭和十六年四月一日から昭和二十二年三月末日までの間、明治時代から続いていた尋常小学校の名称から改められていた。

先頭を歩くのは、校長。続いて高学年の女子、低学年、後方を高学年男子と隊列を組んでいる。当時の全校児童は四十五名。全校の児童と職員で、山から薪を運び出し、業者に売ることによって学校の経費を捻出したと聞いている。背負う薪の量も個人差が見られ、興味深い。後方の柱は、家庭で飼われていた牛の爪切り場である。



- \*わかりやすく〈伝える〉技術 池上 彰  
講談社現代新書 ￥740
- \*よい教師をすべての教室へ L・ダーリングーハモンド他  
新曜社 ￥1,600
- \*「ほめる」技術 鈴木 義幸  
日本実業出版社 ￥952
- \*それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤 洋子  
朝日出版社 ￥1,700

\*孤高 国語学者大野晋の生涯 川村 二郎  
東京書籍 ￥1,700  
大野晋は、日本語を通して、日本人とは何かの研究に88年の生涯を捧げた。司馬遼太郎をして、「抜き身の刀」と言わしめた。当時の日本語学会が、古代の日本語の研究を疎かにしていることを批判し、古代日本語研究に没頭した。そして、60歳にして、日本語の源流の探求にのめり込んだ。「学問は、深めれば深めるほど、自分に分かることがいかに少ないかが、分かってくるものなんです」の晩年の言葉は、重みをもって心に響いてくる。 山中小 酒井 芳宏

音楽が、その人の人生を語る上で欠かせないことがある。今回、同前さんの取材を通して、改めてそれを感じた。

年齢を尋ねると、「まあ、いいじゃないですか」と、優しくかわされた。岡崎ジャズストリートに自らの思いを映し、日々、人生を満喫されている姿をかいま見た。

四方を豊かな自然に囲まれた、百三十年以上の歴史と伝統のある鳥川小、大雨河小、千万町小が、本年度をもって閉校となる。

みんなで完成させた最後の学芸会。児童、職員、保護者、地域の方々が家族のようにかわっていた。故郷や母校を慕う強い思いを感じた。

## シ オ ス ア

淡い緑のフキノトウ、春の使者がむつくりと顔を出した。夏の間、大きな葉で日光を受けて養分を蓄えたフキは、冬を越した後、花を咲かせ、春の到来を告げる。

一年間がんばって力をつけてきたフキノトウ。今年はず、綿帽子ができ、種が飛んでいくまで見守ろう。

澄んだ声が運動場に響く。教室から運動場にふと目をやると、子供たちがほおを真っ赤に染めて遊ぶ姿が目に残った。

真冬の厳しい寒さの中で、さつきまで震えていたのに、白い息を吐きながら無邪気に遊んでいる。この笑顔を、これからも大切にしていきたい。